利用規約

■ 以下に該当する方はご利用いただけません

・7 歳未満の方
・身長が 110cm 以下の方
・妊娠中の方、心臓の弱い方、血圧に異常のある方
・重い病気にかかっている方、ペースメーカーなどの医療機器を装着している方
・部位に関わらず骨折されている方
・自立歩行が出来ない方
*自力歩行とは、杖や付き添い者のサポートなく、お一人での歩行が可能なことです
・首、背中、腰、脊椎に異常のある方
・視覚に障害をお持ちの方
・聴覚に障害をお持ちの方
・乗り物に酔いやすい方
・飲酒している方
・体調がすぐれない方
・ご利用により悪化する恐れのある症状をお持ちの方(めまい、高所恐怖症、閉所恐怖症、呼吸器系疾患、けいれん発作、騒音過敏症、暗所恐怖症、肌の弱い方、光過敏症発作)
・精神障害をお持ちの方(本人またはお連れの方の申告によって判断します)
*係員の指示を理解し、指示に従っていただける方で、健常者の付き添いがある場合は体験可能です
・その他、体験する上での安全確保が難しい方

■ 13 歳未満のお子様のご利用に関して

・7 歳未満のお子様は VR コンテンツを体験できません。また、体験エリア内へ入場いただくこともできません
・7 歳～12 歳のお子様が体験する場合、親権者の同意書が 1 名に対し 1 枚必要です。必ず親権者の方が内容を確認し、記入してください
また、内容の特性上、対象のお子様おひとりでの体験はできません。1 名に対し 18 歳以上の保護者 1 名の同伴が必要です
・ご利用時間について、連続 20 分のご利用に対し、10 分から 15 分程度の休憩をとってください
・斜視や複視、その他、視力の異常や眼科的疾患のあるお子様や、眼科に通われているお子様は、専門医に相談の上、ご利用ください
・ご利用後にお子様の視力について異常が見られた場合、早急に専門医を受診してください

■ VR コンテンツの体験にあたって

・お体の不自由な方は、スタッフにお尋ねください
・気分が悪くなったり身体に異常を感じたりした時は、速やかに体験を中止してください
・VR 機器はほかのお客様も利用しますので、丁寧にお取り扱いください
・お客様の故意または過失により VR 機器を損傷・故障させた場合、修理金額をご負担いただくことがございます
・機械の警告表示や係員の指示に従えない方、注意事項またはスタッフの指示に従っていただけない方はご退場していただく場合がございます
・本展示内で走る・寝転がる・座り込むなどの行為はご遠慮ください

■車イスのご利用に関して

・車イスをご利用の方はスタッフが付き添います。同意された方のみご利用いただけます
・状況によりお待ちいただく場合があります。あらかじめご了承ください

ご利用上の注意事項

■持ち物について

以下の手荷物は持ち込みができません。スタンバイルームのロッカーをご利用ください。
・バッグやリュックサック
・スマートウォッチや携帯電話、ポケット Wi-Fi、パソコン、カメラ、ビデオカメラなどの電子機器
※専用機器の誤動作につながるため、体験には電源オフの状態でも持ち込めません
・その他、ポケットにしまうことのできない手荷物

■服装、靴、髪型について

・安全のため動きやすい服装・お履物でご利用ください
・以下の服装や靴、髪型では、本展示はご利用いただけません
◇サンダルやミュールなど、つま先やかかとが露出した靴
◇かかと部分の高さが 5cm 以上の靴（厚底靴やスニーカー、ブーツ等、種類を問わず）
◇ゴーグルの装着時に支障をきたすような装飾品や身につけているもの、落下や巻き込みのおそれがあるもの
◇その他、体験する上での安全確保が難しいと判断されるもの

・ポニーテールやおだんごヘアなど、ヘアスタイルによってはゴーグルが装着できない場合は、髪をほどくか、低い位置で束ねることをおすすめします
・眼鏡をかけたままでのご利用も可能ですが、形状や大きさによってはゴーグルを装着できない場合がございます
・コンタクトレンズでのご利用をおすすめしております
・遠近両用メガネ(遠近両用コンタクトレンズ含む)では、快適にご体験いただけない場合がございます
・手が袖に隠れていると正常にご体験いただけないことがございますので、袖丈の長い方はめくった状態でご体験ください
・イヤリング・ピアス等アクセサリーは外してください

免責事項

・専用機器の装着、着脱時や安全面で必要と判断した際、スタッフがお客様に触れる場合があります。あらかじめご了承ください
・安全上のルールやスタッフの指示等に従わない方は、体験をお断りする、あるいは途中で終了させていただく場合があります
・本 VR をご利用中の怪我、事故、メガネ等の装飾品の破損、トラブル、盗難その他の損害については一切の責任を負わないものとします。ただし、当施設の責に帰すべき事由による場合は、この限りではありません